

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

横田 傳 氏 岩国市医師会 3月29日 享年 76

嶋本 道子 氏 山陽小野田医師会 5月6日 享年 100

編集後記

ゴールデンウィークはいかがお過ごしでしたか。私は、4月末に第18回男女共同参画フォーラム@高松へ行って参りました。基調講演1は、香川大学前学長の筧 義行先生の「女性医師を取り巻く諸問題」。講演の前半で医学部入試における女性差別問題が取り上げられていました。東京医科大での不正入試が発覚した2018年、文科省の緊急調査で9大学において女子差別や年齢差別などの不適切な入試が確認されましたね。女子医学生の比率の推移を示すスライドでは、1965年以降の右肩上がりのグラフが、1990年代半ばからカクンと水平方向になっていました。筧先生は失われた20年間と呼んでいましたけど。

それに続くスライドのタイトルは、「女性医師自身はどう考えている？」です。某医大勤務女性医師180名のアンケート調査によると、女性医師の82%が大学入試における性差別は「仕方ない」と答えています。詳しく言うと、「あってはならない」が14%、「ある程度は仕方ない」が68%、「必要悪」が14%、「回答なし」が4%。医師になるための長く厳しい努力を陰湿な男女差別により踏みじられた女子受験生に、「仕方ない」と私を含め先輩女性医師が考えている部分があるわけですね。もちろん常に人材不足で疲弊した医療現場にいるからこそ、この姑息な対策を単純に断罪できない。私自身もこの不正に対し、何もアクションを起こしていませんし。しかし黙っていることは受け入れていること。理解があるのと、物分かりがいいのとどこが違う？と、このタイミングで一喝されました。

皆様、現在放映中のNHKの朝ドラ「虎に翼」はご覧ですか。主人公トラちゃんが、弁護士になれたお祝いの席で、素晴らしい演説をしてくれました。かなり端折って大雑把に紹介します。彼女は日本で一番優秀な女性だと言われると『志半ばで諦めた友。そもそも学ぶことができなかった、その選択肢があることすら知らなかったご婦人方がいることを、私は知っているのですから。』『私たち、すごく怒っているんです。ですよ？法改正がなされても、結局女は不利なまま。女は弁護士になれても、裁判官や検事になれない。男性と同じ試験を受けているのに、ですよ』『男か女かでふるいにかけてられない社会になることを、私は心から願います。いやみんなではしゃいませんか？しまししょうよ！』圧巻の演説です。そして彼女たちの努力の先に安住している自分には痛い問いかけです。チョコちゃんではなく、トラちゃんに叱られました。

(常任理事 長谷川奈津江)